

# 設計演習ⅢB

## 07 面構造によるメモリアル空間

開講年次：学部3回生前期

[担当教員]

光嶋裕介（光嶋裕介建築設計事務所）

竹口健太郎（アルファヴィル一級建築士事務所）

遠藤秀平（教授）

[Teaching Assistant]

具志堅美菜子（A66） 前田洋佑（A66）

### ■課題主旨

メモリアル空間を（面状の構造により）計画する（面状の構造とは柱や梁による線材の架構ではなく、壁面／床面／屋根面の連続により構造躯体として成立するものを言う）。構造計画に関しては厳密な構造計算による根拠は求めないが、モデル検討及び構造力学的見地に立った基本的な考察を必要条件とする。この構造体を構成する材料は石・コンクリート・鉄・ガラス等一般的に流通するものとし、社会的な合意を得られるコストを前提とすること。また、平面計画や建築造形において形態的メタファーによる合意を目的とせず、計画する環境（場・空間）に対して身体的な関心と理解を探究すること。個人を象徴する空間を熟慮し、そこに必要な空間と場の特殊性を構造・構成・構築概念を手がかりに物理的提案として創出する。

### ■概要

各自が社会的実績を勘案し顕彰に値すると判断する人物を選択、その個人のためのメモリアル空間を設計する。敷地の選定においては、選択の必然性を前提とすること。その他必要空間を設定し理想的な外部環境・ランドスケープを含めてのメモリアル空間を提案すること。延床面積は2000平米程度とする。

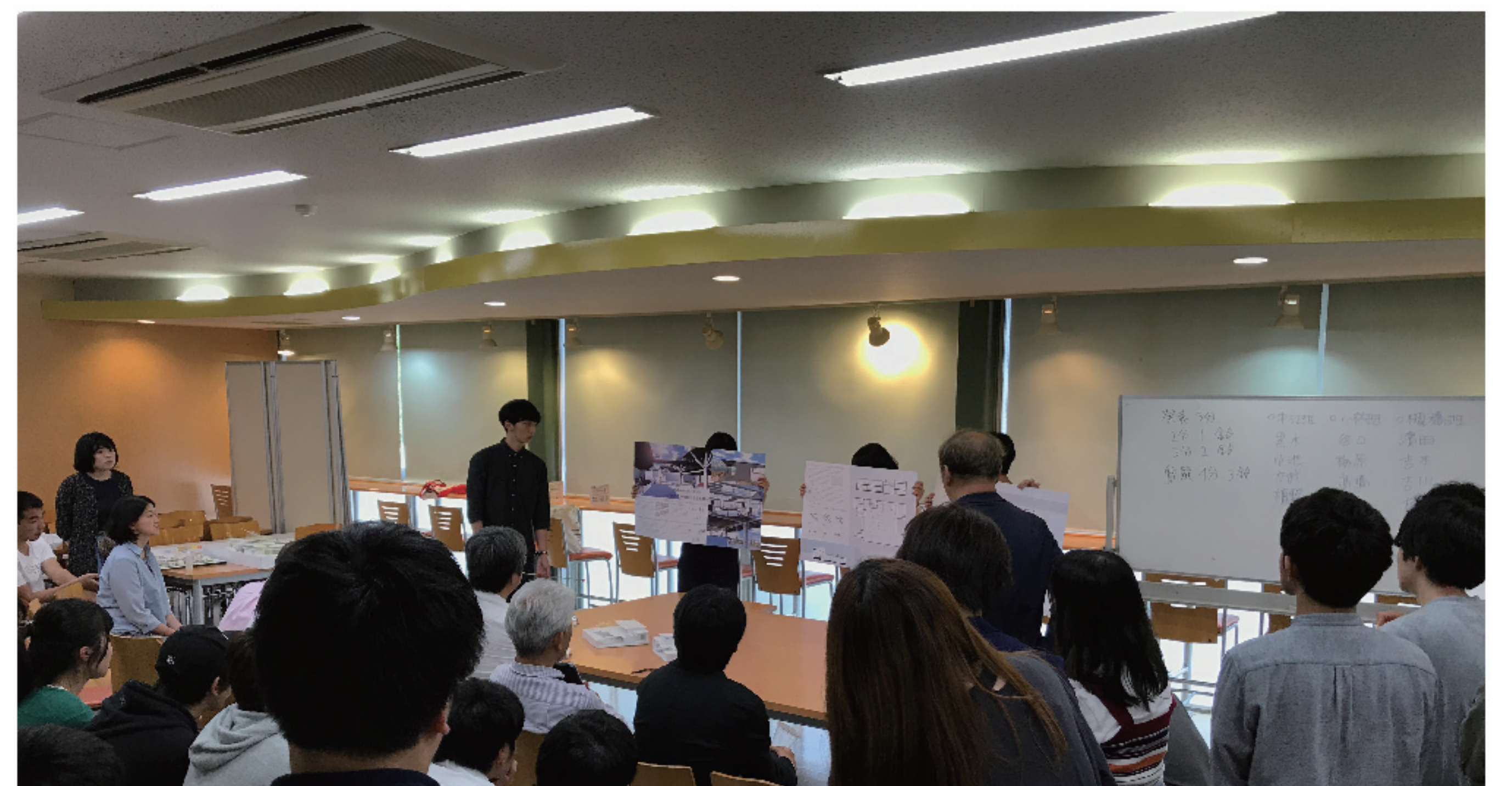
### ■敷地

各自設定。設定した人物にふさわしい敷地を選ぶこと。

### ■提出物

A1図面3～5枚程度、完成モデル1：100、必要図面は各自設定し、第三者に十分な理解を得られることを目的とする。

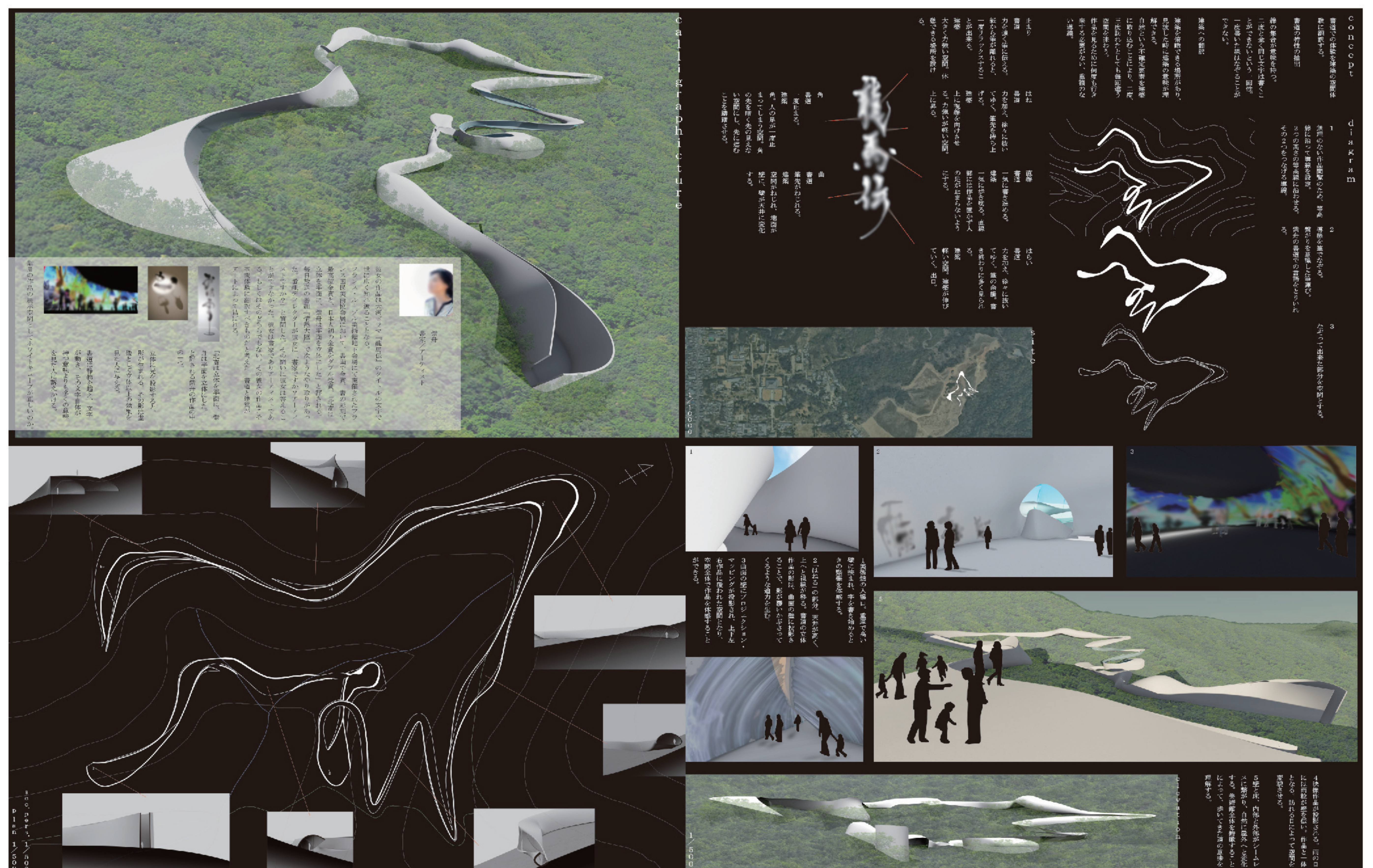
### ■講評会の様子



## Calligraphicture

上山貴之

「北斎は立体を平面に、紫舟は平面を立体にした。」と評される紫舟の作品の展示空間として、水平な床と垂直な壁に囲まれた空間はふさわしいのだろうか。「書道での体験を建築の空間体験に翻訳する。」ことで書道作品と建築を融合する。





# DIALOGUE ~Cenotaph for Turing~

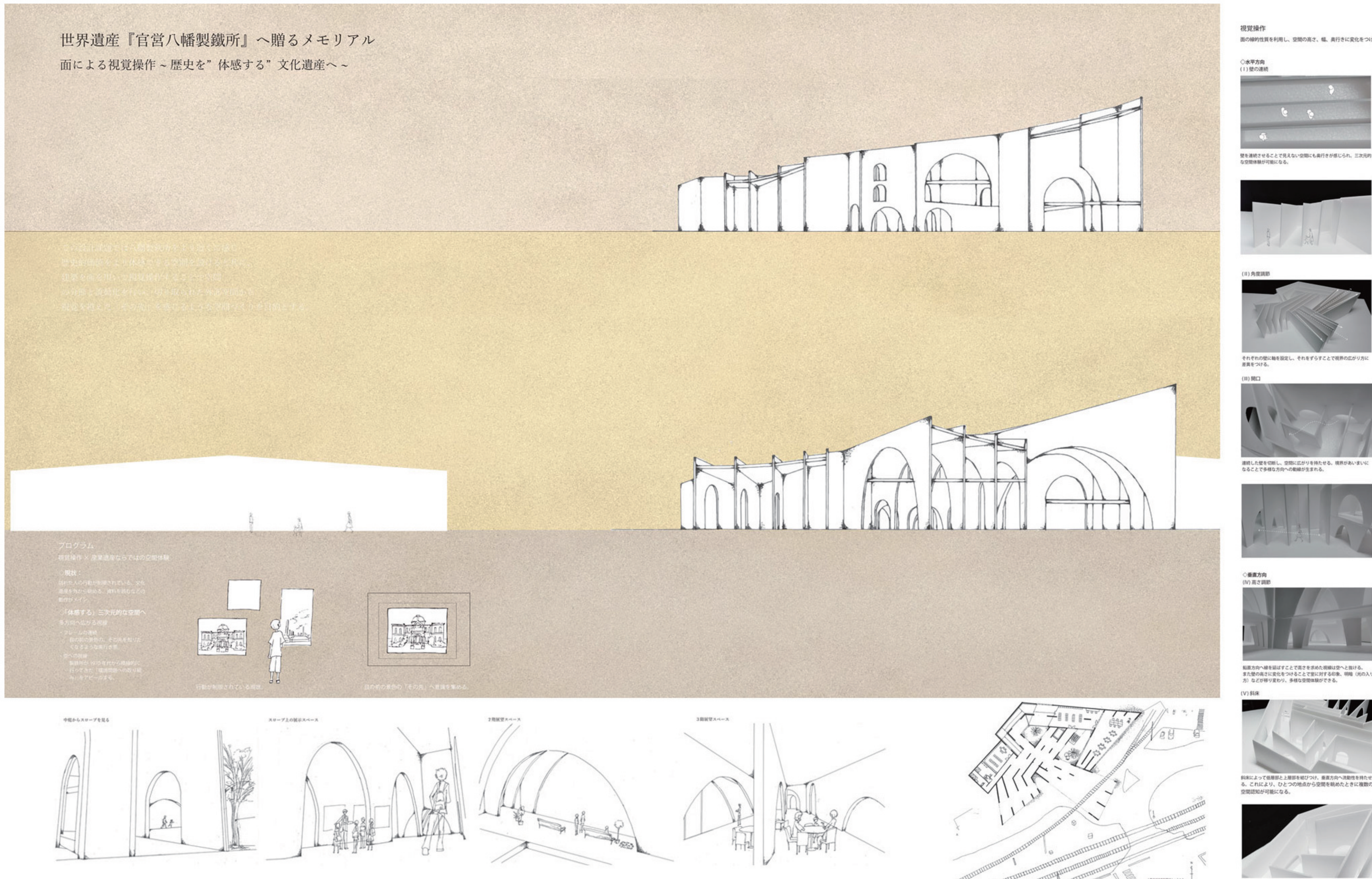
CHEN KEN

アラン・チューリングというイギリスの数学者、論理学者、暗号解読者、コンピュータ科学者のためのメモリアル空間である。布引雄滝との対立によって、「人間、自然、人工知能」と「過去、現在、未来」の間に Dialogue が創れる空間を設計した。



## 世界遺産『官営八幡製鐵所』へ贈るメモリアルー面による視覚操作～歴史を”体感する”文化遺産へ～

北九州市の八幡製鐵所のメモリアル。本設計課題ではこの産業遺産を単に眺めるだけでなく「体感」できる空間を設けると共に、面を用いて視覚操作することで空間の分節と流動化を行い、視覚を越えた「その先」を感じる空間作りを目標とする。

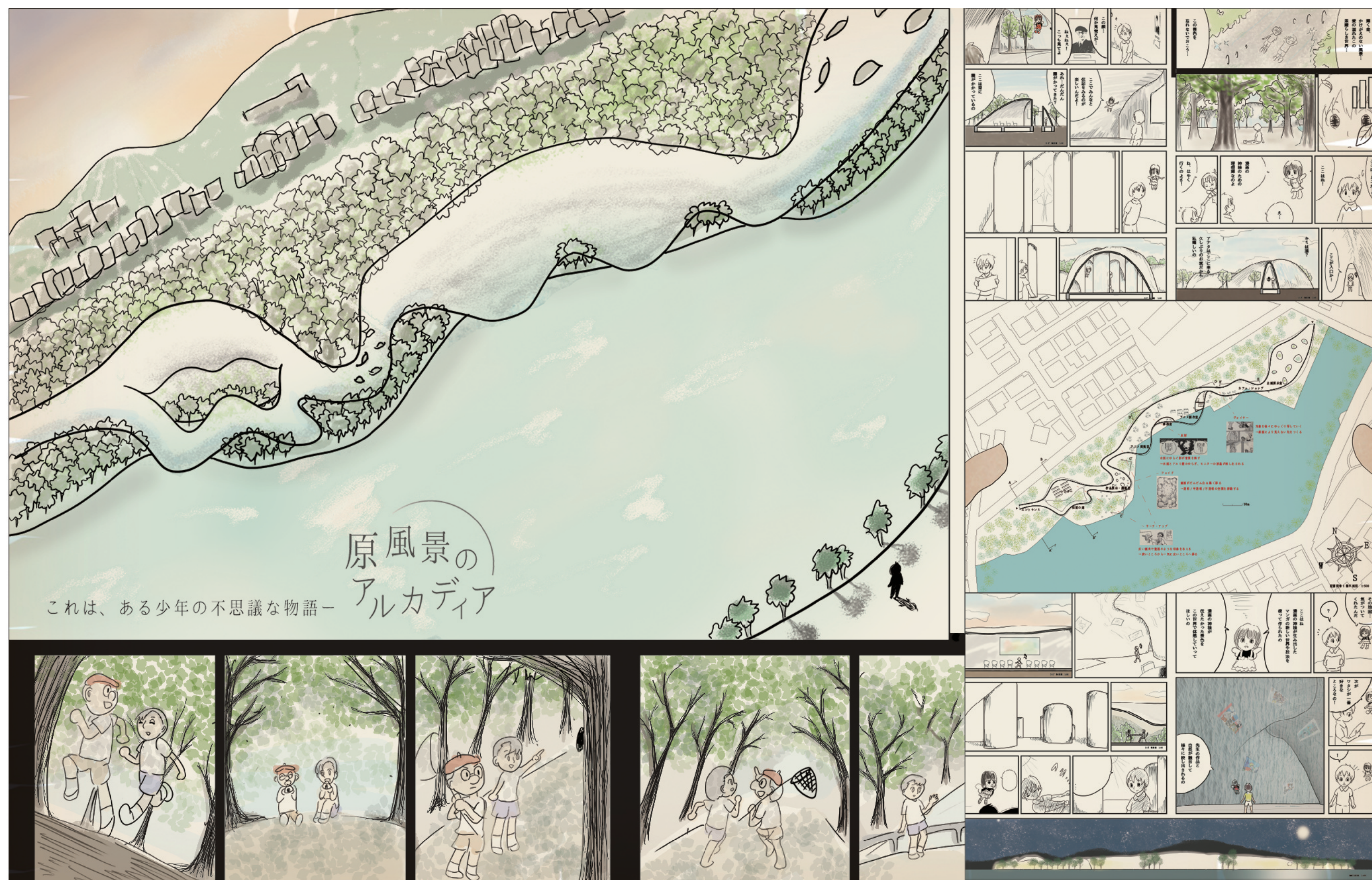




## 原風景のアルカディア

梅原きよみ

手塚治虫が見ていた原風景を再構築する。訪れた人は、手塚の原風景を追体験するとともに自身の原風景を思い出す。手塚が愛した自然、描いた思想、発明した手法をメタファーとして設計手法に落とし込むことで、手塚が思いを馳せた原風景をより魅力的に映し出す。



## 記憶を巡る —Memorial Library—

向上沙希

既存のダムの上に建つ展望台。そこを訪れた人の目に写る景色は、虚像であり、一人として同じものを見ていない。「記憶」というフィルターを通して歪んだ世界をカズオ・イシグロの世界と重ねて体験するメモリアル空間。

